

それぞれの土地を支配しはいしていました。

会津では、前の時代（鎌倉時代）に関東地方から進出してきた芦名氏あしなが黒川（今の会津若松）を中心として勢力せいりきょくをのばし、会津地方の各地にその一族の人々をおいて支配していました。

猪苗代兼載いなわしろけんさいは、その芦名氏の一族の子として、享徳元年（一四五二年）に猪苗代湖のほとり、小平瀉こびらがたで生まれました。現在、夏になると湖水浴こすいよくでにぎわう天神浜てんじんはまのあたりです。

兼載は、小さいころは梅うめとよばれていましたが、とてもかしこい子供であつたので、近くにある天神てんじんさまの申し子もうごといわれていました。

三歳のころ、母の背中せなかに負おわれていた梅

